
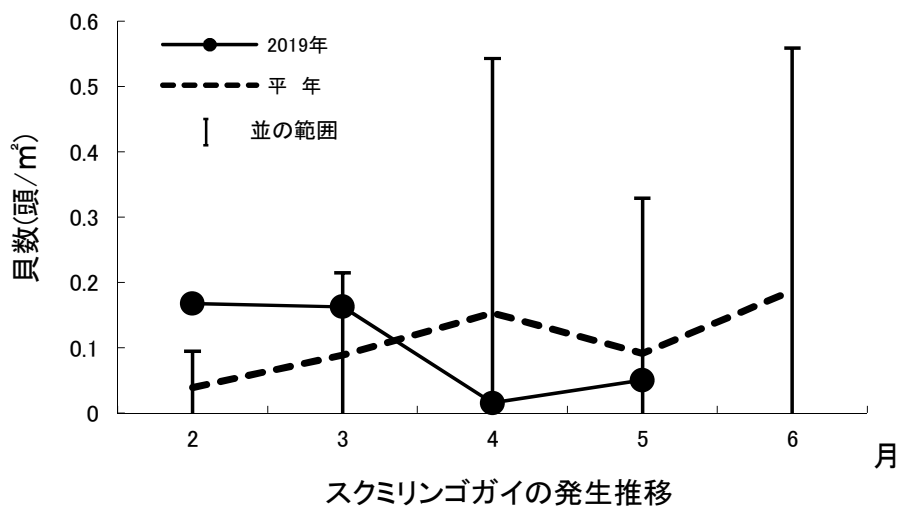


作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	① スクミリンゴガイ		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果


今期と平年の推移



- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 貝数 (個/m²) : 0.05 (前年0.08、平年0.09)

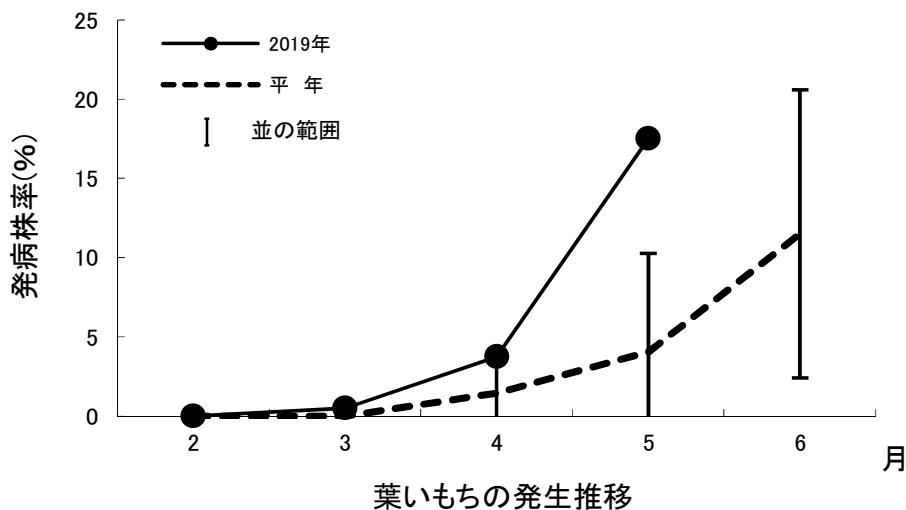
防除のポイント

- ・ 次作に向けた密度低減を図るため、貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。
- ・ 畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	② 葉いもち病		
予報	6 月の発生量 (平年比)	やや多	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果


今期と平年の推移



- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 発病株率 (%)：17.50 (前年17.50、平年4.04)

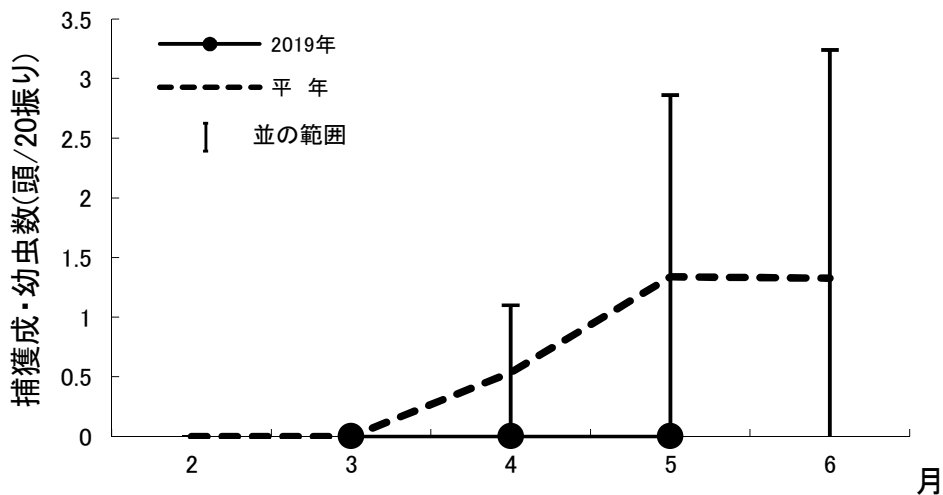
防除のポイント

- ・ 収穫後の被害わらは次作の感染源となるため、水田付近に放置しない。
- ・ 汚染もみは次作の感染源となるため、発生ほ場からは採種しない。

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	③ 斑点米カメムシ類		 <p>クモヘリカメムシ</p>
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移




斑点米カメムシ類の発生推移

- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 捕虫網20回すくい取り虫数（頭）：0（前年0、平年1.34）

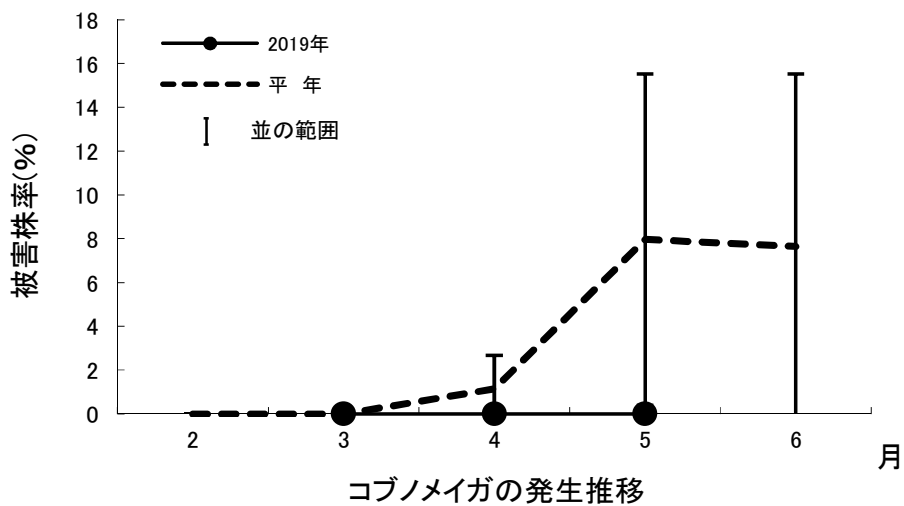
防除のポイント

- ・ 次作に向けた密度低減を図るため、収穫後に畦畔および水田周辺の除草を行う

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	コブノメイガ		
予報	6 月の発生量 (平年比)	やや少	
	5 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	(発生なし)やや少	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果


今期と平年の推移



- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 被害株率 (%) : 0 (前年5.75、平年7.96)

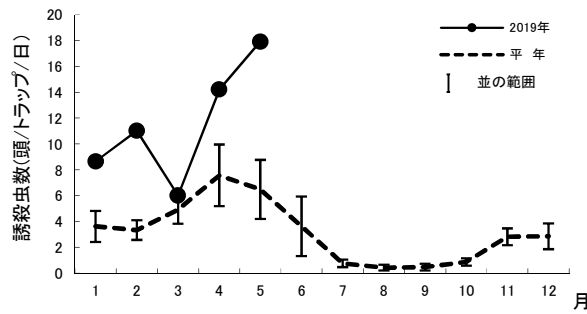
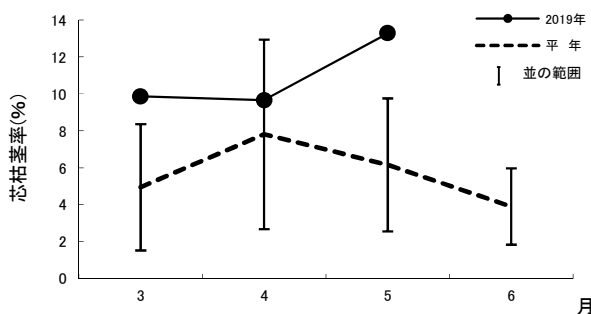
防除のポイント

- ・ 次作に向けた密度低減を図るため、収穫後に畦畔および水田周辺の除草を行う。

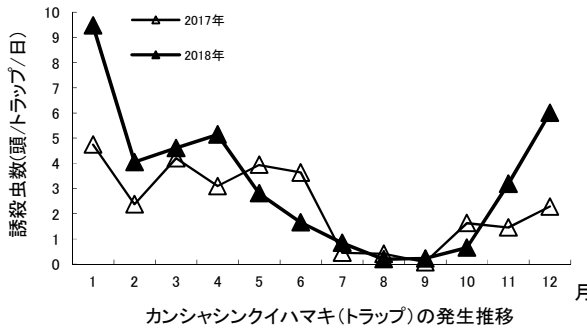
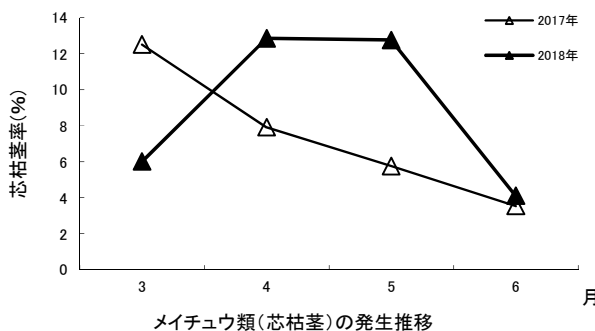
作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
予報	6 月の発生量 (平年比)	やや多	
	5 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移



- ・ 茎内で発見したメイチュウ類の90%がカンシャシクイハマキであった。
- ・ 病害虫防除員報告 (メイチュウ類) : 中発生 (波照間島)

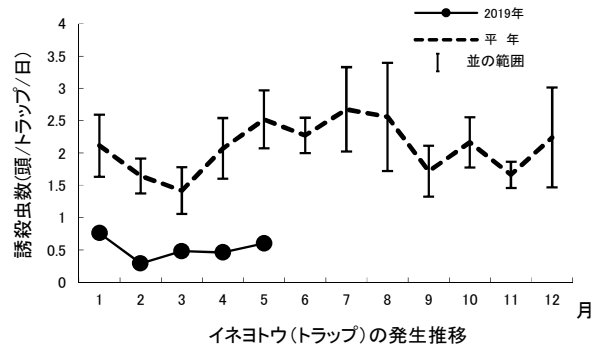
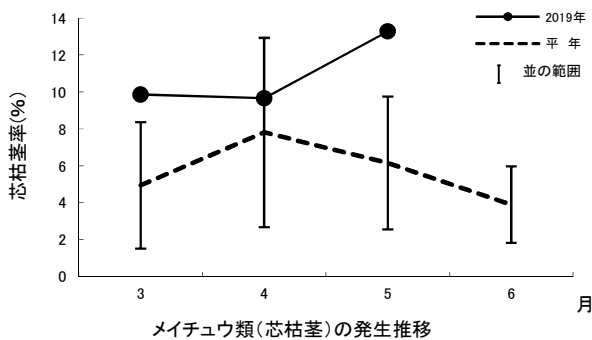
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

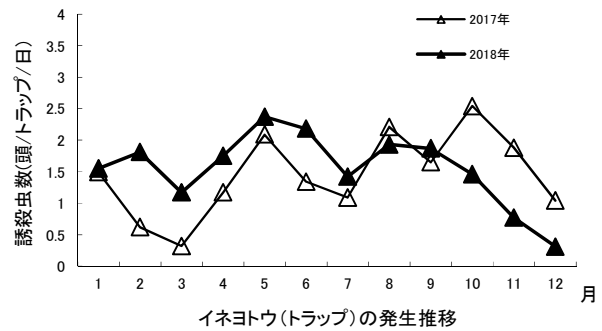
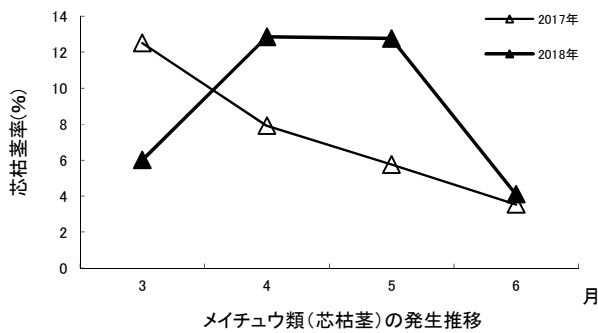
作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	② メイチュウ類(イネヨトウ)		
予報	6 月の発生量 (平年比)	やや多	
	5 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移



- ・ 茎内で発見したメイチュウ類の10%がイネヨトウであった。
- ・ 病害虫防除員報告 (メイチュウ類) : 中発生 (波照間島)

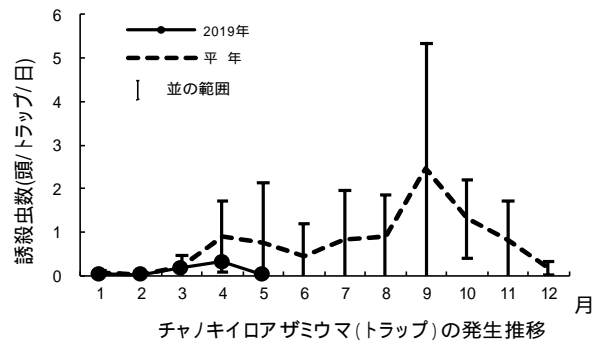
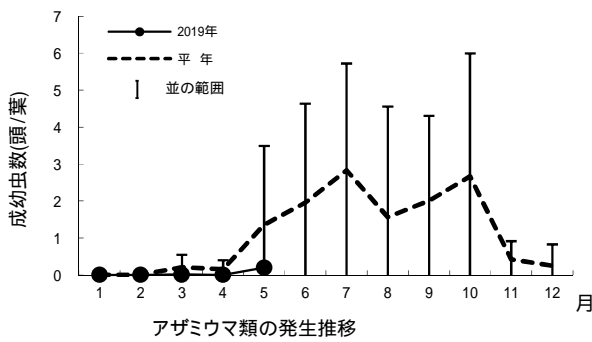
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

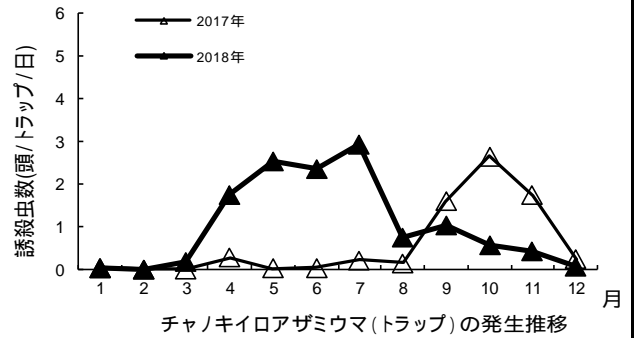
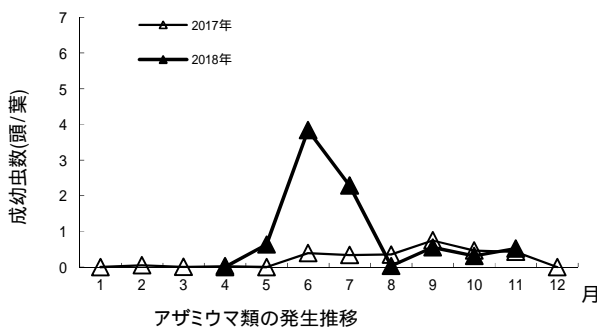
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向		
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 ()	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移




防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ 多発施設では、収穫終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

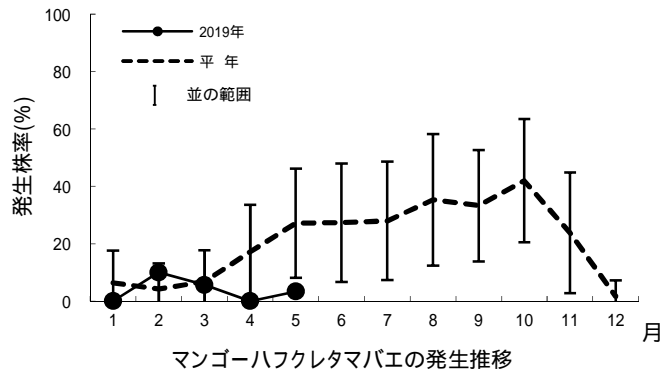


ナガエコミカンソウ

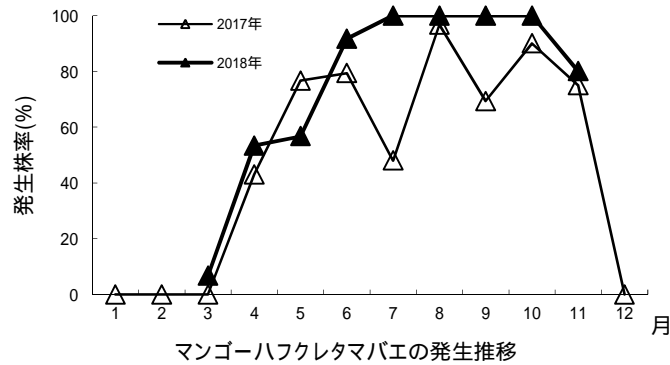
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	マンゴーハフクレタマバエ		
予報	6 月の発生量（平年比）	やや少	
	5 月からの増減傾向		
予報の根拠	5 月の発生量（平年比）	やや少	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（ ）	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



防除のポイント

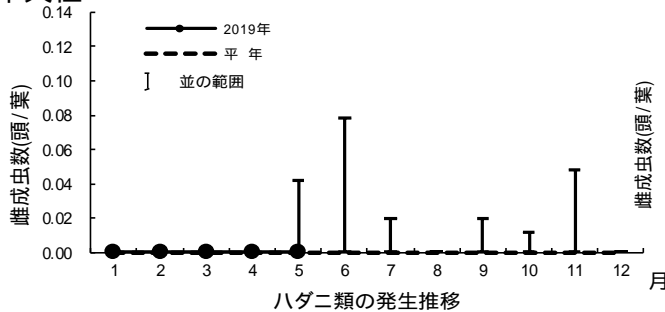
- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 翌年の着果枝となる新梢が加害されると減収につながるため、多発施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。せん定枝は施設外に処分する。

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向		
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 ()	

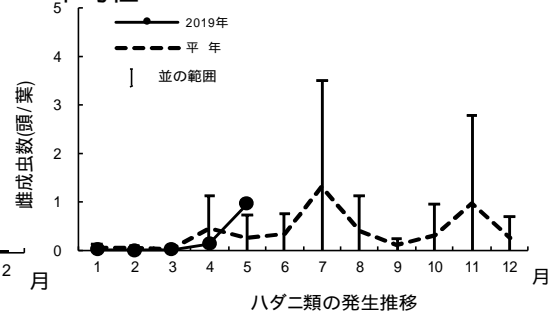
調査結果

今期と平年の推移

中央値



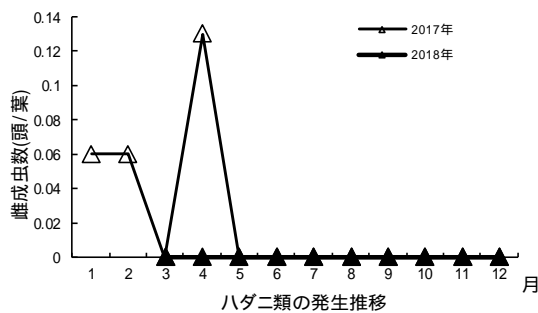
平均値



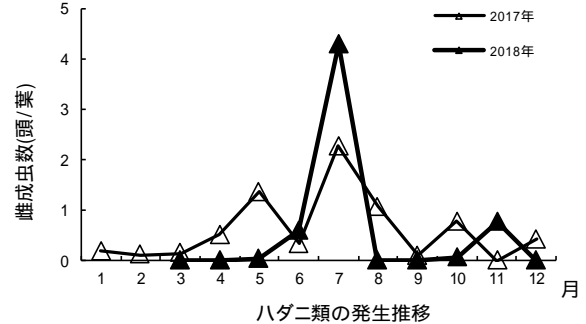
・雌成虫数(頭/成葉) : 0.96 (前年0.1未満 平年0.25)

過去2年間の推移

中央値



平均値



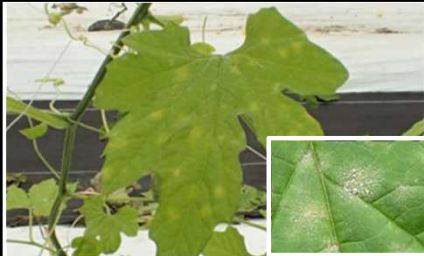
- ・一部の調査ほ場で多発生していた。
- ・発生種 : シュレイツメハダニ

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

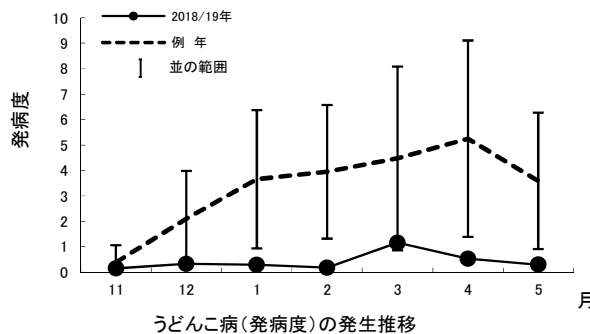
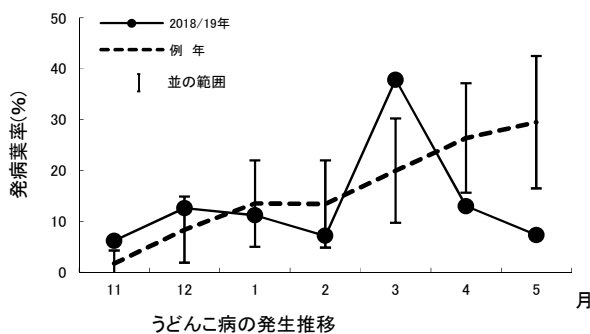


ハダニの寄生による葉のかすれ症

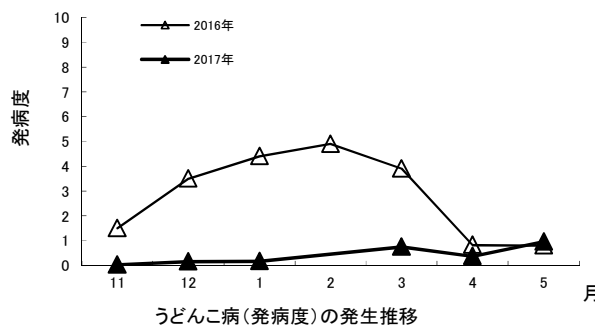
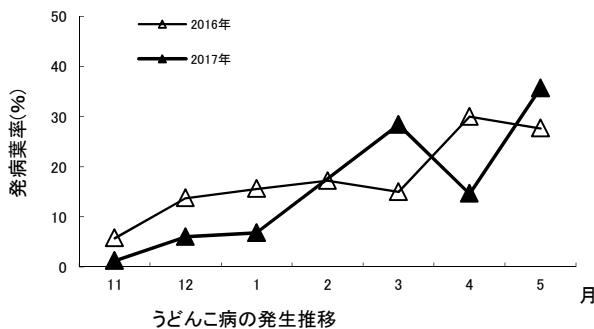
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	うどんこ病		
予報	6 月の発生量 (例年比)	-	
	5 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	5 月の発生量 (例年比)	やや少	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



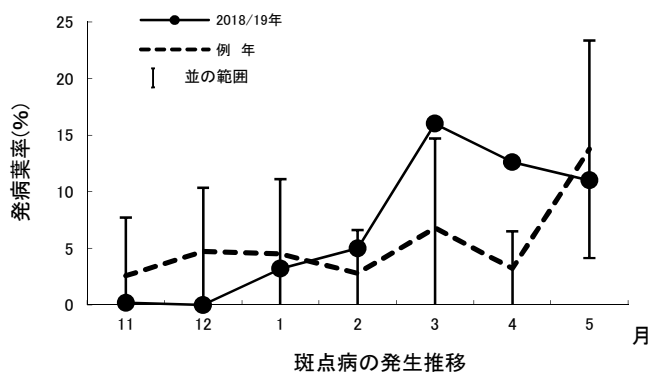
防除のポイント

- ・老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

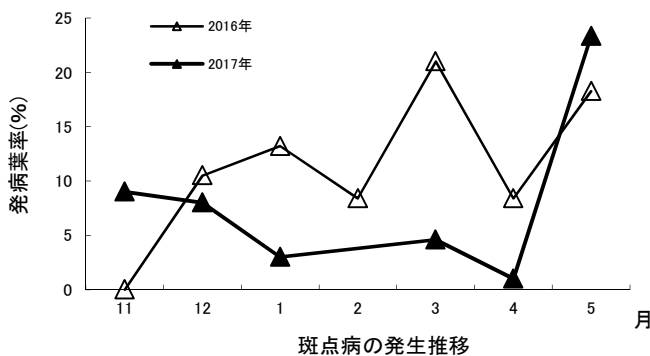
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	① 斑点病		
予報	6 月の発生量 (例年比)	-	
	5 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	5 月の発生量 (例年比)	並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



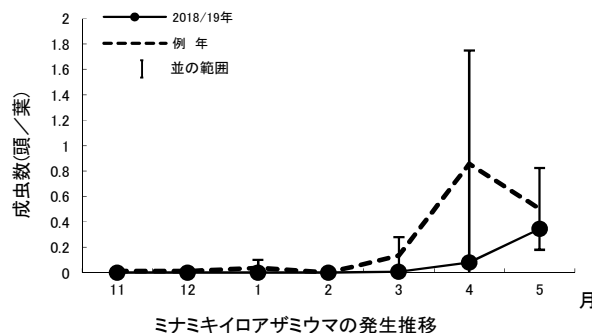
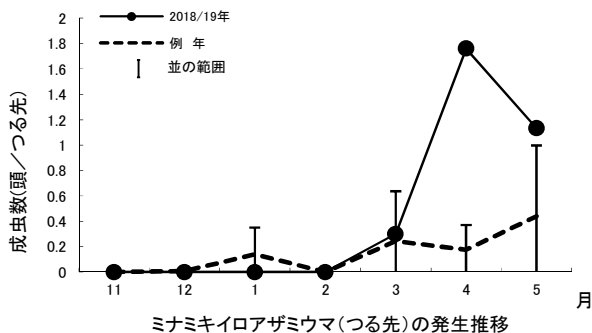
防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。またビニールの破れは補修する。

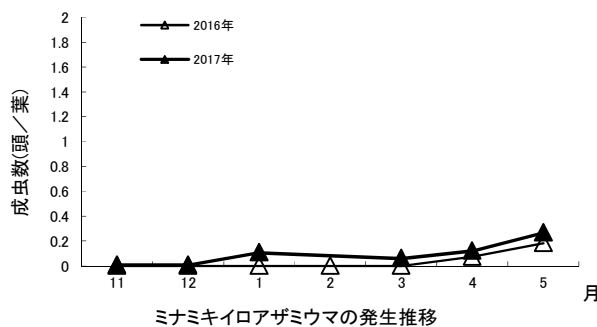
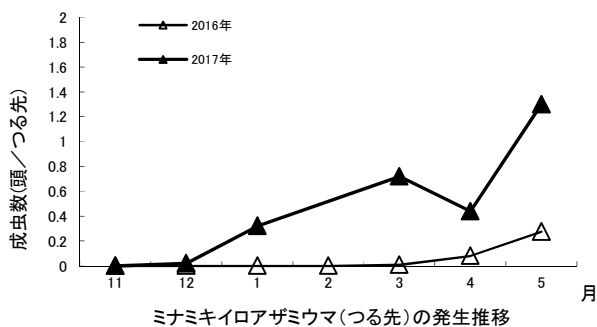
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ		
予報	6 月の発生量 (例年比)	-	
	5 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	5 月の発生量 (例年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

今期と平年の推移



過去 2 年間の推移



防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

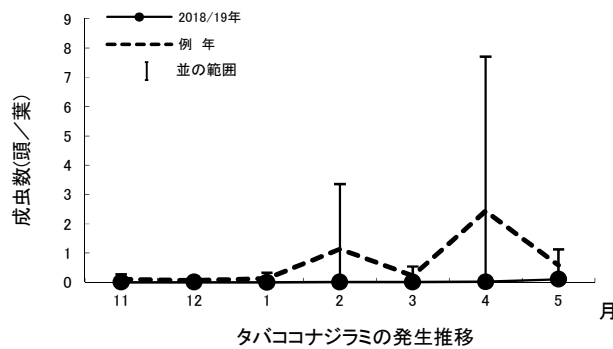


果実の被害

作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	③ タバココナジラミ		
予報	6 月の発生量 (例年比)	-	
	5 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	5 月の発生量 (例年比)	並	
	その他 (気象要因など)		

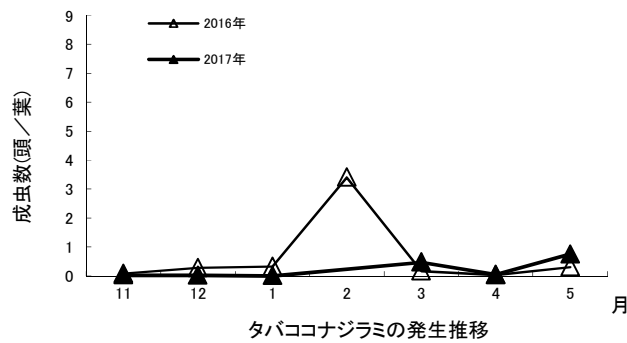
調査結果

今期と平年の推移



・成虫数 (頭/葉) : 0.11 (前年0.74)

過去2年間の推移



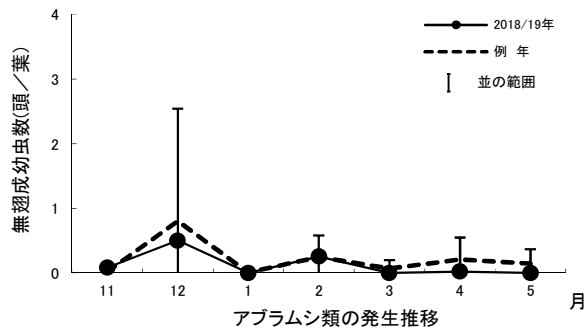
防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	④ アブラムシ類		 <p>ワタアブラムシ</p>
予報	6 月の発生量 (例年比)	-	
	5 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	5 月の発生量 (例年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)		

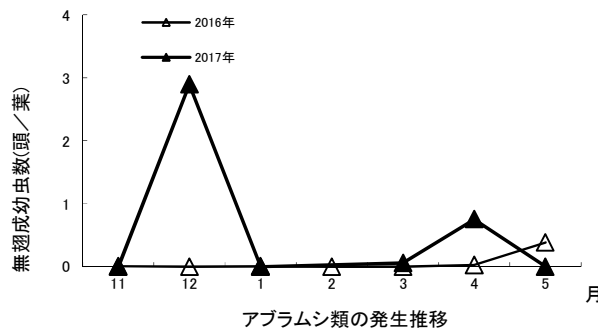
調査結果

今期と平年の推移




・成虫数 (頭/葉) : 0.00 (前年0.00)

過去2年間の推移



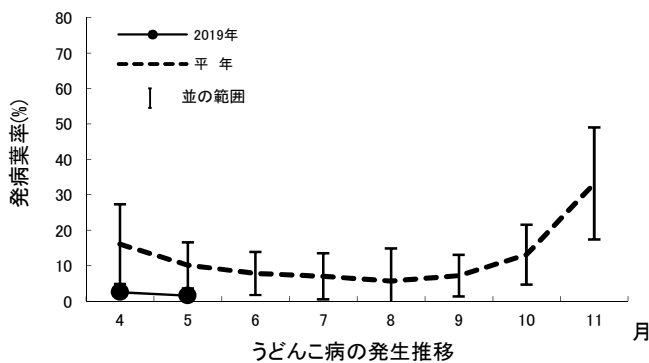
防除のポイント

- ・本種はウイルス病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・発生初期は局所的に分布するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。

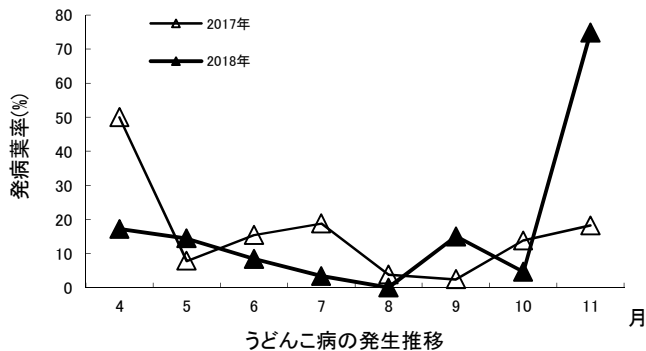
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	うどんこ病		
予報	6 月の発生量 (平年比)	やや少	
	5 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	やや少	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



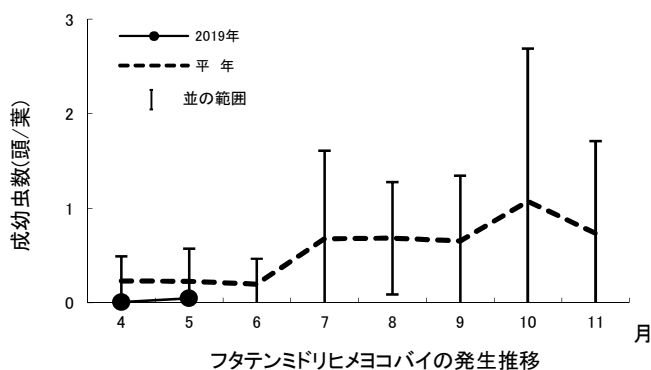
防除のポイント

- ・ 下位の罹病株や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・ 窒素過多にならないようにする。
- ・ 草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

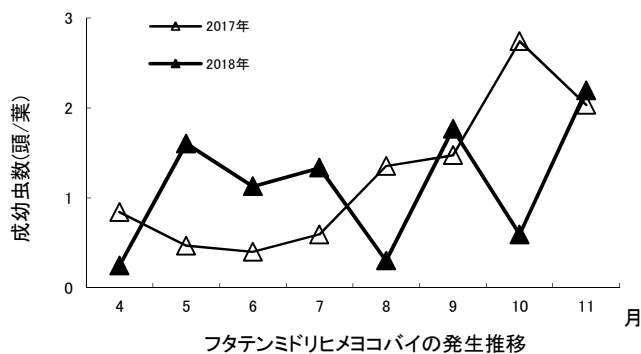
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	フタテンミドリヒメヨコバイ		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



防除のポイント

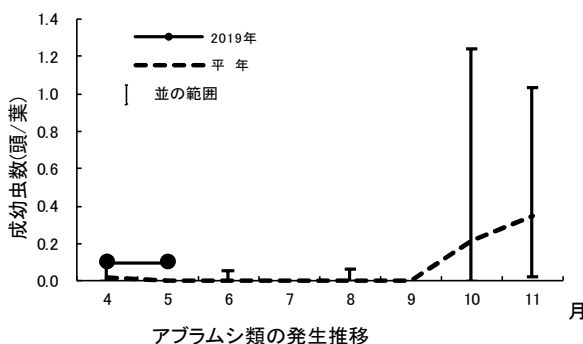
- ・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	① アブラムシ類		
予報	6 月の発生量 (平年比)	やや多	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

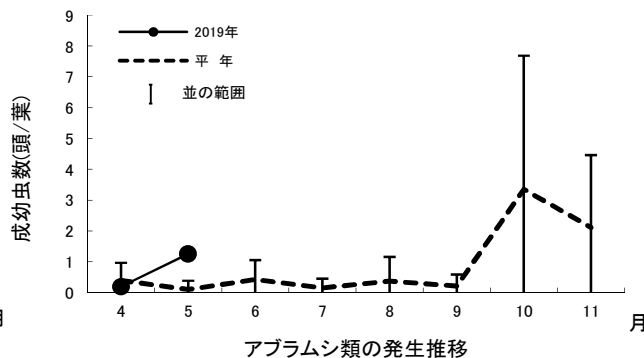
調査結果

今期と平年の推移

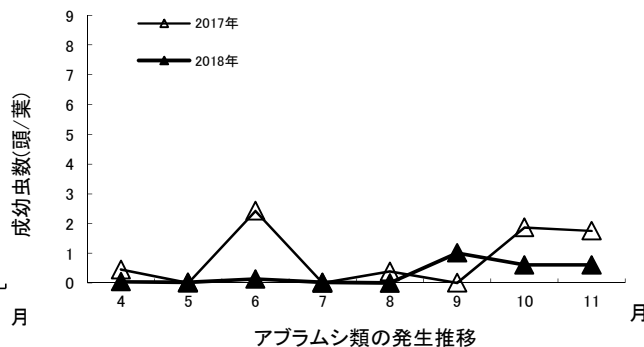
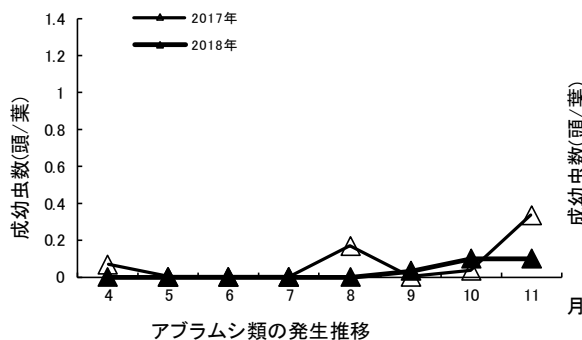
中央値



平均値




過去2年間の推移



・一部の調査ほ場で多発生していた。

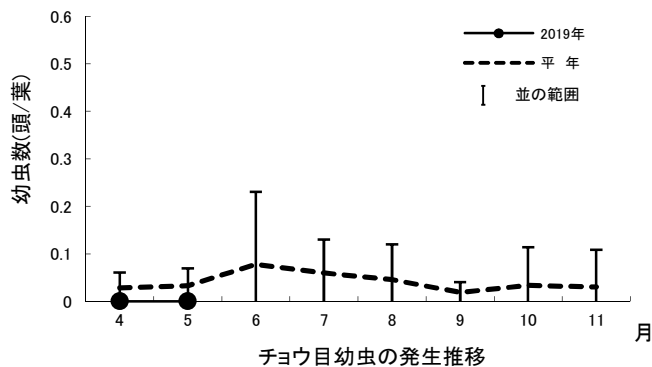
防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

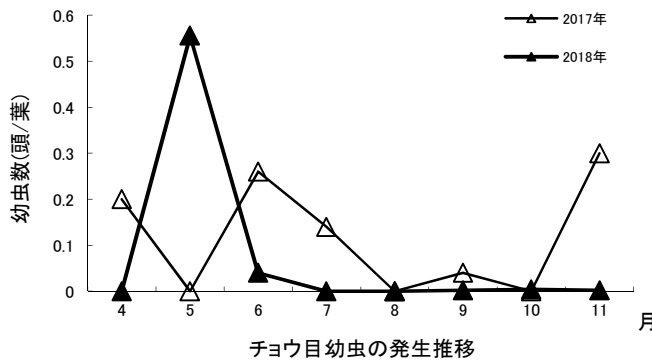
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	チョウ目幼虫(オオタバコガを除く)		 <p>台湾キドクガ</p>
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。